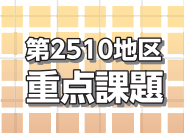




05

通巻 第2709号
2015年7月31日発行

1960年創立
昭和35年2月5日



●2015-2016年度 IRテーマ
世界へのプレゼントになろう

2015-16年度IR会長
K. R. ラビンドラン

- ①クラブ戦略計画への支援
- ②新会員のフォロー支援
- ③クラブサポート強化

●本日 7月31日 金のプログラム

◎納涼夜間例会
点鐘 18:00～ ニュー三幸 1階麦羊亭

●来週 8月7日 金のプログラム

◎「小樽観光ガイドクラブの活動」
スピーカー:青塚和春氏

●再来週 8月14日 金のプログラム

◎休会となります。

●第4回例会報告 7月24日 金 「骨髄バンク移植3万例突破」 スピーカー 内山景一朗氏 ■司会 廣瀬副会長

■ロータリーソング ■「我等の生業」

■ゲスト、ビジターの紹介■

内山景一朗氏 (小樽骨髄バンク推進会)
川下 俊樹氏 (チェンマイ・ノースRC)

■ご挨拶 ■ 川下 俊樹氏 (チェンマイ・ノースRC)



サワディークラップ(プ)カー (タイ語で「こんにちは」の意味です)。私はタイのチェンマイ・ノースRCから参りました川下でございます。本日は、このような機会を頂きましてありがとうございます。(中略)そして、今なぜ北海道にいるのかということですが、チェンマイには、冬に北海道でゴルフを楽しむ方が大勢います。そういう方の中でお友達になった方が、ぜひ夏に北海道に来て下さいというお誘いがありました。その関係で、ニセコに来たことがあり、そのニセコを好きになりました。三年前から毎年ニセコに来ております。本日は、小樽に用事がありましたので、小樽南RCに参加させていただきました。タイの冬はとても良い気候ですので、皆様もタイに来られたら、フルアテンドいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■会長の時間 ■ 廣部会長

財団寄付で10名の会員にご賛同いただき、PHF、マルチ、トリプルの会員が誕生いたしました。

板垣会員 湊会員 米山会員 鳥井会員 本間(清)会員
白石会員 加藤会員 工藤会員 高木(成)会員 濱本会員



■幹事報告 ■ 坂口幹事

・例会変更のお知らせです。

◆小樽RC

8月11日(火) 移動例会 場所 長橋小学校 点鐘12時30分
8月18日(火) 夜間例会による時間変更 点鐘17時45分
8月25日(火) 休会 (クラブ定款第6条第1節C項)

◆小樽銭函RC

8月13日(木) 休会 (クラブ定款第6条第1節C項)

◆倶知安RC

8月5日(水) 休会 (クラブ定款第6条第1節C項)

◆岩内RC

8月13日(木) (クラブ定款第6条第1節C項)

8月27日(木) 午後6時30分 会場 ふく鳥

・本年度のロータリー手帳がまだ若干のこっておりますので、ご利用の会員の方は、お持ち下さい。

■委員会・同好会報告■

◎社会奉仕委員会 佐藤(公)委員長

本日例会終了後、明日の潮祭りの踊りの練習をいたします。参加される方はよろしくお願いいたします。

◎広報情報まごころ箱委員会 工藤副委員長

現在、ホームページを開設しておりますが、8月からフェイスブックも開設いたしますので、開設できましたご連絡いたします。フェイスブックの初期投資は約5,000円で、その後お金はかかりません。全国の約220のRCがフェイスブックを開設しております。



骨髄、さい帯血移植 30000例突破!!!

—「骨髄バンク」のいま—

認定特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

理事 内山 景一朗氏



2015年4月16日、日本骨髄バンクと全国6カ所（2015年4月現在）の、さい帯血バンクを介した『骨髄移植・末梢血幹細胞移植およびさい帯血移植（非血縁者間造血幹細胞移植）』の累計移植症例数が3万例を突破しました。これを記念して骨髄バンク・さい帯血バンクをもっと知って欲しい！との思いを込め日本赤十字社と全国骨髄バンク推進連絡協議会の共催で「ドナーがつなぐ「日本縦断キャラバン」」が行われました。4月24日沖縄県翁長知事らの見送りを受けて出発したキャラバンカーは全国47都道府県を走破し、6月28日に北海道庁赤レンガ庁舎の前で完走式が行われました。全国各地で行政また血液センターに感謝を込めこれからのさらなる前進をアピールしました。

1 白血病、骨髄移植、骨髄バンクについて

白血病は現在でも小児から高齢者まで広く発症し、小児・青年層での病死因の中で高い割合を占めています。国立がんセンターの予測では、2015年の白血病罹患数は13800人、死亡数は8200人とされています。2014年度に北海道だけでも379人の方が亡くなっています。「骨髄移植・末梢血幹細胞移植およびさい帯血移植（非血縁者間造血幹細胞移植）」とは白血病の患者さんが最後に頼る治療法です。

白血病は血液のがんで、血液細胞が骨髄でつくられる過程で、がん化した細胞（白血病細胞）が、骨髄内で増殖し、骨髄を占拠してしまうため、正常な血液細胞が減少し、貧血、免疫系のはたらきの低下、出血傾向、脾臓（血液を貯蔵しておく臓器）の肥大などの症状があらわれます。1960年代までは急性白血病では数週間から数カ月、慢性白血病でも数カ月から数年で死亡する死の病でしたが、60年代後半からは抗がん剤の多剤併用療法が始まり、治療成績は著しく向上しました。しかし65歳未満の合併症のない急性骨髄性白血病の患者さんでも、約80パーセントが再発するなど極めて厳しい病気であることに変わりはありませんでした。

2012年（平成24年）9月にそれまで厚生省の通達だけで個別に運用されていた「骨髄バンク」「さい帯血バンク」が、

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が成立、平成26年1月1日施行により、統合された運用が開始されることとなりました。日本赤十字社が造血幹細胞の提供を支援するようになり、患者さんとその家族にとって大きな力になることが期待されています。

2 「骨髄バンク」の原動力はボランティア

地域での活動にとどまっていた「骨髄バンク推進」運動が、全国的なつながりを持ちました。1990年に「全国骨髄バンク推進連絡協議会」が北海道をはじめ全国13団体の加盟で設立されたのです。「骨髄バンク」設立にむけて湧き上がったボランティア運動は、「よりよい骨髄バンク」を目指してドナー登録会を積極的に進めました。

ドナー登録は骨髄提供の仕組み説明を受けた上で ①骨髄・末梢血幹細胞移植の提供の内容を十分に理解している方 ②年齢が18歳以上54歳未満で健康な方（採取は20～55歳）③体重が男性45kg以上／女性40kg以上の方 が登録できます。この6月末で累計64万人もの方が登録し有効ドナー登録は452,845人に上っています。いまでは造血幹細胞移植を希望する患者さんに適合するHLA型のドナーさんが一人以上見つかる確率は90%近くにまでなっています。しかしドナーさんの体調、ご事情で提供に至れないケースも多く課題となっています。

提供できない理由のひとつに「家族の反対」があります。ドナー本人だけではなく提供時にはご家族の同意が必要なのです。骨髄提供時にドナーさんの安全のために行う入院、全身麻酔を「危険だからだ」として反対される。脊髄から採取するのは危険と勘違いされている。等、提供可能な年齢の方であるかどうかを問わずに「骨髄移植の正しい知識」を啓発していくことも大切な活動になってきます。またドナーさんが引越した際に「住所変更」をされず、連絡がつかない。つまり行方不明状態になっているケースも多いのです。登録して頂いた「善意を生かす」ためにいろいろな手立てを考え実行することも必要になってきています。

55歳になった登録者さんは「ドナー卒業」となります。そのため若い人たちにドナー登録をして頂かなければ登録者数は減少していきます。現在の登録状況のままであれば2030年に登録者数の減少が始まります。白血病以外にも骨髄幹細胞移植を必要とされる血液難病の患者さんが増加傾向にあることから、私たちはドナー登録をさらに進めて行かなければならないと考えています。

3 白血病の「患者さんと家族」のために

全国協議会は地域運動では出来ない広がりをもった活動をしています。（患者さんと家族に笑顔を）をモットーとして

- ①患者支援 ②ドナー支援 ③骨髄バンク普及啓発
 - ④骨髄バンクを育てる活動国、公共団体への患者サイドからの要望
- 私たちの活動は、多くの方々の善意に支えられて来ました。そして、いま財政面の確立が最重要課題となっています。皆様に賛助会員（企業・団体・個人）、サポート会員（個人）として継続的にご支援いただければ幸いです。

紙面の都合により、内容を一部割愛させていただきました。ご了承下さい。

出席委員会

・平成27年7月24日

会員総数 73名 本日の欠席者 9名
浅村、荒木、岡崎、角野、桂、湊、福井、前川、山田(正)

・平成27年7月10日

会員総数 73名 出席摘要免除者 名

病欠者数 0名 ホーム欠席者数 12名
メーカーキャップ 5名 純欠席者数 7名
期末移動夜間例会につき89.55%

メーカーキャップ

7/17 上野(国際) 7/9 山田(正)(小樽RC)
7/21 岡崎(国際奉仕委員会)